



## 委 員 会 報 告



## 医療事故防止委員会

### ○設置目的

- 1) 医療事故防止委員会の開催
- 2) 報告されたインシデントについての原因分析、対策の検討、職員への周知
- 3) 医療安全に関する職員研修・指導
- 4) その他、医療安全に関する事項の協議

### ○委員構成

委員長 1 名、副委員長 3 名、看護部長、事務長、各部署長等からなる 19 名

### ○2011 年度の活動報告

委員会では毎月、委員会の開催日前日までに報告されたインシデント事例一月分の中から重要事例を採り上げ、部署内での対応・対策を確認し、対策が不十分であれば、あらためてその改善を依頼し、結果を翌月の委員会にて確認した。また、複数部署にかかわる事例では、対応・対策について協議・調整した。

2011 年度のインシデントの総報告数は 1,349 件であり、2010 年度の 1,866 件から 28%減少した。部署別にみると、最も報告数の多い 2 階病棟(全報告数の 37%)と 2 番目に多いリハビリテーション科(同 17%)は 2010 年度と同程度であったが、他の部署の報告数は 2010 年度より 10~60%減少した(2011 年度部署別インシデント報告数:図 1)。発生原因では、「うっかり」、「思い込み」、「確認不足」が 59%、「マニュアル違反」が 6.6%で、2010 年度のそれぞれ 65%、8.6%から減少した(2011 年度インシデント発生原因:図 2)。

年度目標として、

- 1) インシデントレポート様式の改定(用語の再定義、入力項目の変更等)
  - 2) 委員の役割の明確化(即時にインシデント報告を受け、即時に対策を協議し、決定事項について部署内全職員へ周知を図ること)
  - 3) 転倒転落事故の詳細な要因分析
- の 3 項目を掲げていた。

1) については、事故種類 10 項目のうち、例年「その他」が 6~7 割を占めていたため、整理・統合・追加し、11 項目に改め、また、インシデントの影響度レベルを一部細分化し、「未然事例」の項目を追加し、さらに、アクシデント報告については、インシデント報告とは全く目的・性格を異にするものであるため、その報告手順を変更した。以上の様式変更は 2012 年度より実施することとした。2) については、インシデント報告の委員入力欄の入力の遅れや未入力の一部の部署に比較的多い傾向がみられ、また、あらたに講じた対策についての周知不徹底も散見された。3) については、委員会内での討議以上には詳細な分析はできなかったが、センサーマットの追加購入や、病棟におけるベッド等のストッパー・チェックの工夫により、転倒・転落リスクの低減が図られ、実際、骨折等の重症事故は生じなかった。

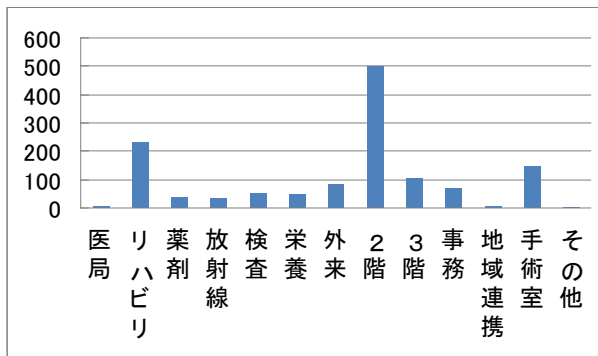


図1 2011年度部署別インシデント報告数

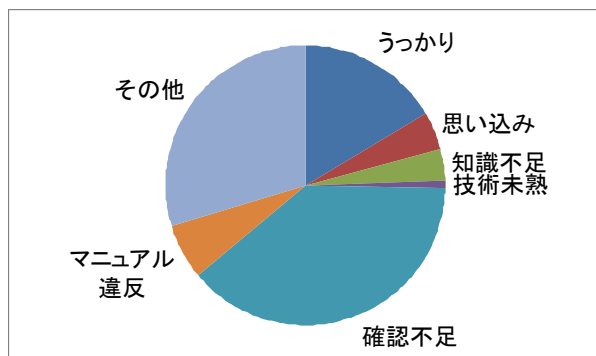


図2 2011年度インシデント発生原因

教育研修については、以下の通り行われた。

- 1) 医療事故事例検討会 (6/10)
- 2) 医療ガス安全管理講習会「酸素ボンベ等の取り扱い」(10/7)
- 3) 医療事故防止勉強会：院内救急対応について (11/4)
- 4) 感染対策講演「基本的な医療関連感染防止対策を実効するために」(11/18)
- 5) 感染対策講習会「手術時手指消毒：ラビング法の提案」(手術室) (3/27)

#### ○2012年度の重点目標

2011年度の目標のうち、達成不十分であったと思われる「委員は即時にインシデント報告を受け、遅滞なく、報告（入力）を行い、早急に対策を協議し、決定事項について部署内全職員へ周知を図ること」を再度掲げる。

#### ○2011年度委員会開催日

4/15 (金)、5/6 (金) (臨時)、5/13 (金)、6/17 (金)、7/15 (金)、8/19 (金)、9/16 (金)、10/21 (金)、11/18 (金)、12/16 (金)、1/20 (金)、2/17 (金)、3/16 (金)

#### ○まとめ

インシデントに対して、二度と同じことが起こらないように対策を練る。そのためにはなぜ起こったのか原因を探る。インシデント報告の発生原因入力欄には「うっかり」、「思い込み」、「知識不足」、「技術未熟」、「確認不足」、「マニュアル違反」、「その他」の7項目があるが、原因を「その他」とするインシデントが全体で3割を占める。「その他」の原因とは何か。

マニュアルに沿って確認しながら確実に事々を行えば事故は起こらないはず。インシデントが起こったとしたら、①マニュアルに沿って確認しなかったか、②確認して行ったが知識・技術が不十分で完全には行えなかったか、③マニュアルに誤りがあったか、マニュアル自体がなかったか、あるいは④人員・設備の問題か。結局「その他」とは上記①、②以外、つまり③か④が原因か。

2008年度から2011年度までの4年間のインシデント報告(6,700余)を対象として、発生原因7項目のうち「その他」としている報告数の割合を部署別に調べてみた(報告者が発見者で、原因発生部署とは異なる部署の所属の場合もあるが)(図3)。多いのはリハビリテーション科65%、3階病棟51%、少ないのは薬剤科4%、地域医療連携室5%、臨床検査科8%など。「その他」が多い(原因)部署は、マニュアルの不備・不足あるいは人員・設備の不足(問題)ということか。マニュアルの不備・不足は考えにくい。ならば、人員・設備不足か。転倒リスクのあるリハビリテーションや認知症患者の不穏行動に起因するインシデントを減らすためには、本当はもっと人員が必要、もっと設備の充実が必要ということか。例えば、不穏行動をいち早く察知できるよう、さらにセンサーやカメラ、通報システムを設置するなど。無理なら、せめて転倒・転落しても骨折したりしないように畳を敷いたり、いたるところクッションフロアにするとか。いずれにしても、マニュアルや個人の技能云々では限界がある。つまり、この種のインシデントを減らすのは難しいということか(リハビリテーション科の報告数は2010年度と変わらないのに、3階病棟の報告数が半減したのはなぜ)。逆に原因として「その他」が少ない(原因)部署は、原因がはっきりしている、すなわち、すでにあるマニュアルに沿ってきちんと確認作業を行い、知識・技術の向上を図っていけば、すなわち、個の改善によりインシデントを減らすことができるということ。したがって、インシデント総報告数の37%を占める2階病棟は個の改善によりインシデントを減らすことができるはず。

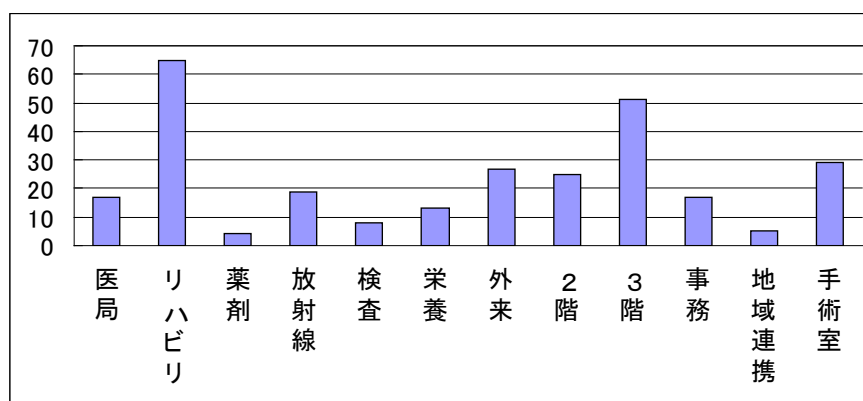


図3 過去4年間のインシデント発生原因中の「その他」の割合 (%)



## 感染対策委員会

### ○設置目的

院内感染に関する事項、感染患者の状況把握と対策に関する事項

院内感染の研究教育に関する事項、感染者の統計処理、感染性廃棄物処理に関する事項

### ○委員会構成

委員長、副委員長、委員 25 名

### ○2011 年度の活動報告

1. 早朝申し送り時、感染患者の報告を行い全職員に周知し感染に対する意識を高める。
2. 早朝申し送り時、感染の流行情報などを全職員に報告し感染予防に努めた。
3. 咳エチケット、マスク、手洗いを掲示にて周知を図った。
4. グループウェア、掲示板にて毎月の活動内容を全職員に周知した。
5. マニュアルの改訂、新規マニュアルの作成、グループウェアの文書管理にて全職員が閲覧できるようにした。
6. 勉強会
  - ・基本的な医療関連感染対策を実効するためには  
大分大学医学部附属病院感染管理認定看護師 赤峰みすず先生  
11 月 18 日 出席率 85% レポート提出 13%
  - ・肺炎についての最近の状況  
木下院長 1 月 27 日 出席率 84% レポート提出 11%
  - ・ノロウイルス対策について感染対策委員より実演講習 1 月 27 日
7. 職員教育
  - ・新人職員 教育（スタンダードプリコーション、針刺し事故防止対策、MRSA）
  - ・正しい手洗いの実践 全職員対象 5/23～6/10 1 回目 2/13～/25 2 回目 グリターパグにて実施。
8. 手洗い強化月間 7 月～9 月までの 3 ヶ月。  
各部署一行為一手洗いの実践指導 回診時一行為毎の手洗いの指導、実践を行う。
9. 職員感染予防対策
  - ・インフルエンザ予防接種 全職員対象 11 月 14 日～11 月 18 日
  - ・新人職員 B 型肝炎ワクチンの接種 3 名施行
10. 抗菌薬状況報告  
抗菌薬使用状況の統計（薬剤科）
11. サーベランスへの取り組み  
MRSA、術後感染（腰部手術徐圧患者、固定患者）発生状況統計表作成
12. 針刺し事故  
発生件数 5 件 発生状況の把握と統計作成



13. 手洗い石鹸ユニットの取り付け 各病棟、病室に手洗い石鹸ユニットの取り付けを行う
  - ・入院患者、面会者への手洗い指導を行う。
14. 手荒れ防止 各部署手洗い場にバリアローションの設置
  - ・使用状況の把握、効果確認中
15. アルコール綿単包化の導入 (外来、2. 3 病棟、手術室)
  - 手指、皮膚の消毒、医療機器の消毒を目的とする
  - ・採血、注射、注射抜針後、三方活栓消毒時に使用
16. 中材より機材、ガーゼの単包化の導入

○2012 年度重点目標

- ・院内感染防止対策の実施状況の把握、指導を行う。
- ・感染発生に適切かつ迅速に対応できる体制を取り感染防止に努める。

○2011 年度委員会開催日

4/14 5/12 6/16 7/14 8/5 9/16 10/11 11/10 12/15 1/12 2/16 3/15

臨時会議

8/11 院内感染を防ぐ 現在の取り組み

○まとめ

院内感染予防、一行為一手洗いの徹底を図るため全職員を対象とした勉強会、手洗いの実演、手洗い強化月間を作り実施した。 回診時、処置、診察、バイタル測定時等、一行為一手洗いの徹底を図るため、ワゴンに手ピカジェルを配置、全病室には手洗い石鹸の配置を行い処置後流水での手洗いが実施できるようになった。患者、患者家族へ手洗いの協力を得るよう入院時説明を行うようにした。各部署フット式手洗いの導入により正しい手洗いを行うことができた。また、アルコール綿、ガーゼ、機材の単包化の導入にて定数を確認でき、清潔操作で処置が行えるようになった。今後さらに職員のスタンダードプリコーションを徹底し感染対策に対する意識を高め感染防止に努めていきたい。



## 褥瘡・栄養対策委員会

### ○設置目的

褥瘡対策を討議・検討しその効果的な推進を図ることを目的とする。

### ○委員構成

|      |           |           |           |
|------|-----------|-----------|-----------|
| 委員長  | 玉井（看護師）   |           |           |
| 副委員長 | 古谷（作業療法士） |           |           |
| 委員   | 西宮（医師）    | 村上（作業療法士） | 梶原（理学療法士） |
|      | 中村（栄養科）   | 尾中（薬剤科）   | 平川（看護師）   |
|      | 高橋（看護師）   | 工藤（看護師）   | 豊田（看護助手）  |

### ○2011 年度の活動報告

#### 2011 年度目標

1. 褥瘡発生患者の原因・分析を行ない褥瘡発生予防に努める
  - 1) 褥瘡発生報告書記入マニュアルに沿い報告書を作成
  - 2) 委員会にて原因・分析を行なう（当院発生患者の原因・分析表の活用）
  - 3) 褥瘡予防用具の検討（マット・体交枕）

#### 活動 1. 週 1 回褥創回診（火曜）

2. 必要時形成外科診察依頼(毎週水曜)
3. 褥瘡委員会会議 第 2 火曜日
4. 褥瘡予防用具の管理
5. マット使用患者状況の確認（体圧分散式マットの検討）
6. 褥瘡学会の参加・伝達講習会

### ○2012 年度の重点目標

「褥瘡発生患者の原因・分析を行い褥瘡発生予防に努める」

#### 具体策

- (1) 退院時に褥創の治癒状態を評価する。治癒なのか褥瘡のための転院なのかなどを記載する。
- (2) マニュアルに沿い報告書を作成
- (3) 委員会にて原因分析を行う
- (4) 褥瘡予防用具の検討

### ○2011 年度委員会開催日 毎月第 2 火曜日

### ○まとめ

当院褥創発生患者の原因分析を行い、NST と連携を図り、栄養強化、褥創回診、形成外科受診を行った。  
2011 年度は褥創発生患者 21 名。治癒患者 8 名。治癒率 38%。発生内訳として、持ち込み患者 16 名、院内発生 5 名という結果だった。今後も原因分析を行い、スタッフの意識統一を図りながら褥創発生予防に努めていきたい。



## サービス向上委員会

### ○設置目的

当院における患者サービスに関する事項、サービス向上の為の業務改善、効率化、環境美化および職員の服装マナーの向上を推進することを目的とする。

### ○委員構成

委員長 1 名、副委員長 1 名、委員 13 名、 計 15 名

### ○2011 年度の活動報告

- ①患者待ち時間調査 7 月・1 月実施
- ②環境美化活動
- ③接遇勉強会 1 月実施
- ④意見箱に寄せられた意見の検討
- ⑤接遇・マナー改善活動

### ○2012 年度の重点目標

活気ある職場環境への改善  
環境美化、接遇・マナー、服装等マニュアルの徹底  
患者サービスのさらなる向上

### ○2011 年度の委員会開催日

4/15 5/20 6/17 7/15 8/19 9/16 10/21 11/18 12/16 1/20 2/17 3/16

### ○まとめ

昨年度は環境美化活動や外来での患者待ち時間の調査を積極的に行いました。今年度は新しい取り組みなども取り入れ、患者さんにとっても職員にとってもより良く、活気のある職場環境へと改善していきたいと考えています。また、言葉遣いなどの接遇・マナー面においても、各職員が「はじめ」を持って患者さんと接することができるように注意喚起をしていきたいと思っています。



## 教育委員会

### ○設置目的

当院における医療事故防止教育、感染症対策教育、医療倫理教育および職員の質向上に資する教育活動を行うことを目的とする

### ○委員構成

委員長 1 名 副委員長 2 名 委員 17 名

### ○2011 年度活動報告

| 月    | 日    | 研修テーマ   |                      |
|------|------|---------|----------------------|
| 5 月  | 6 日  | 救急・AED  | 救急勉強会                |
| 6 月  | 10 日 | 医療安全    | 医療事故防止委員会事例検討会       |
| 7 月  | 22 日 | 接遇      | 接遇勉強会                |
| 8 月  | 6 日  | 院内研究発表会 |                      |
| 10 月 | 7 日  | 医療ガス    | 医療ガス取扱方説明会           |
|      | 28 日 | 倫理      | 臓器移植について             |
| 11 月 | 4 日  | NST     | 経管栄養の合併症と対策          |
|      |      | 医療事故    | アクシデント事例報告           |
|      | 18 日 | 院内感染対策  | 基本的な医療関連感染対策を実行するために |
| 1 月  | 27 日 | 感染対策    | ①医療介護関連肺炎について        |
|      |      |         | ②ノロウイルス対応方法          |
| 2 月  | 24 日 | 個人情報    | 個人情報保護法と情報管理         |

### ○2011 年度委員会開催日

毎月第一金曜日

### ○2012 年度重点目標

個人のスキルアップを目指した、全職種参加可能な教育研修。

### ○まとめ

2011 年度は“個人のスキルアップを目指した、全職種参加可能な教育研修”を目標に掲げ、救急勉強会では人形を使用した A E D や救急蘇生の体験、医療安全勉強会では事例検討会、医療ガス勉強会では医療ガス取扱説明会等の研修会を行った。また接遇勉強会、倫理勉強会、N S T 勉強会等では外部講師を招いた勉強会を行った。2012 年度も引き続き全職種参加可能な教育研修を企画していきたい。



## NST（栄養サポートチーム）

### ○設置目的

入院患者一人一人に必要な栄養の質及び量の摂取(投与)方法について提案し、健康を早く回復できるように支援するチーム医療

### ○委員構成

医師(西宮) 管理栄養士(中村) 栄養士(小手川) 薬剤師(尾中) 言語聴覚士(松本)  
看護師(平川 高橋 工藤樹 玉井栄) 理学療法士(後藤)

### ○2011 年度の活動報告

- ・毎週火曜日 14:00～ 対象者のカンファレンス及び回診

(対象者) NST 介入者 SGA 評価(B.C)患者 摂食嚥下障害対象者 褥瘡患者  
アルブミン値 3.0 未満の者 前回様子見患者 食事摂取量低下患者  
大幅な体重減少患者

※NST 介入延べ患者数 942 名/年 介入患者数 227 名/年

※補助食品(高カロリージュース・ゼリー) 摂取患者数 18 名/年 ・・61%  
(11 名)が改善傾向にあった

※当院のエネルギー必要量の補正因子表(活動係数・ストレス係数)作成(2/28)

### ○2012 年度の重点目標

- ・対象患者の抽出をスムーズに行い、その患者の栄養状態をアップし早期退院や社会復帰を助ける
- ・対象患者に対し、適切な栄養管理が行われているかどうかを判断し、最もふさわしい栄養管理が行えるように多職種でのアプローチを行う。
- ・栄養サポート体制加算の施設基準取得。

### ○2011 年度委員会開催日

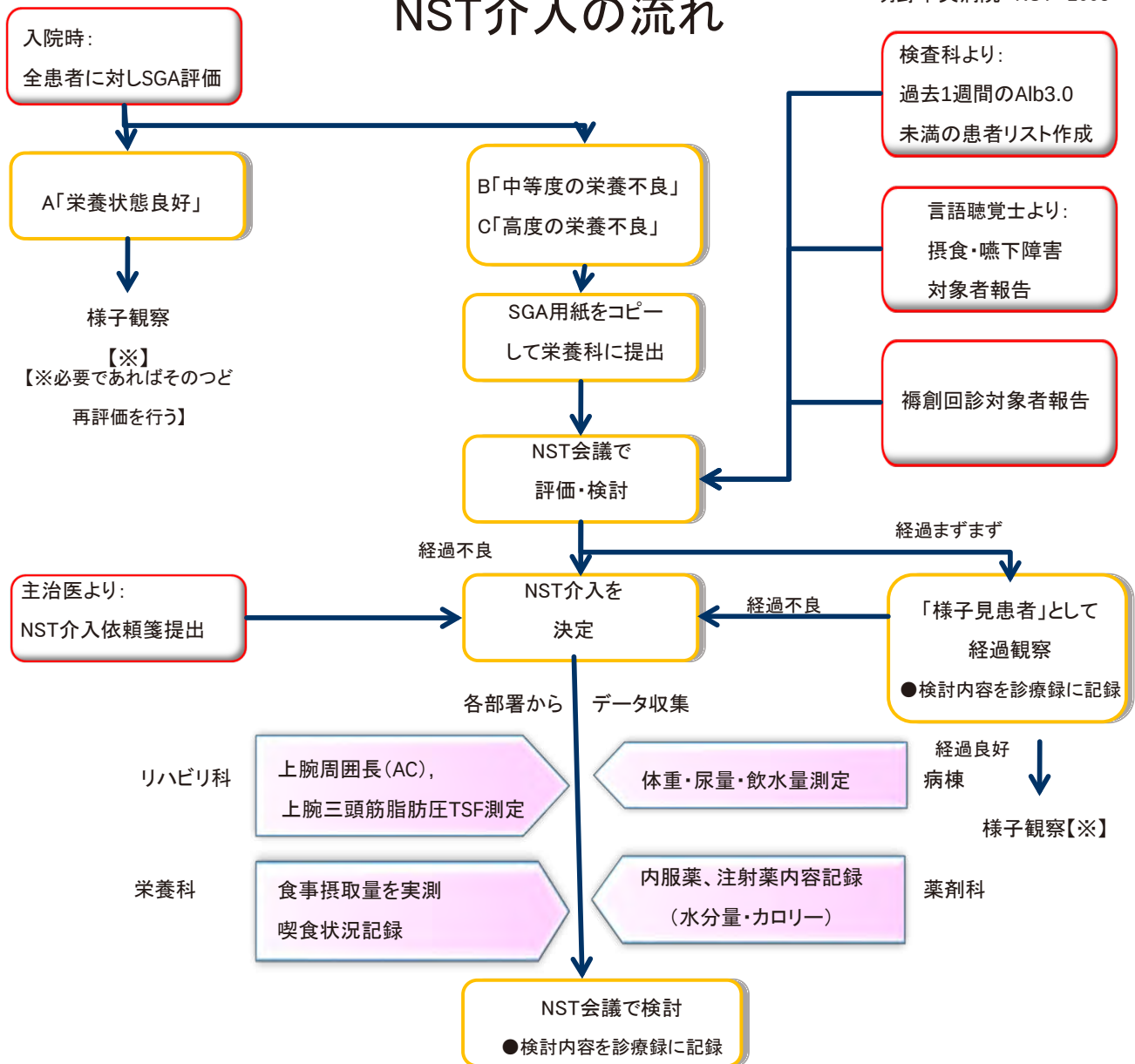
4/26 5/31 6/28 7/26 8/30 9/27 10/25 11/29 12/27 1/31 2/28 3/27

### ○まとめ

入院時全患者に対し早期に栄養状態の把握を行い、栄養状態不良患者に対して早期に NST が介入し栄養状態の改善に努めたいと思います。

# NST介入の流れ

明野中央病院 NST 2008



## NST会議

毎週火曜日 14:00～

NSTメンバー

医師  
病棟看護師  
管理栄養士  
言語聴覚士  
薬剤師

対象

- ① NST介入患者
- ② 様子見の患者
- ③ 摂食・嚥下障害対象者
- ④ SGA評価B、Cの患者
- ⑤ 褥創回診対象者
- ⑥ 過去1週間のAlb3.0未満の患者



## 糖尿病相談会

### ○設置目的

糖尿病の治療にあたり、患者自身とその家族の本疾患に対する基本的な知識の習得・普及を推進する。

### ○委員構成

医師（木下院長） 管理栄養士(中村) 薬剤師(尾中) 看護師（工藤、久保、玉井）  
理学療法士(紺野、安部)

### ○2011 年度の活動報告

#### ○第 26 回糖尿病相談会 テーマ 「ミートソースパスタを試食」

開催日：2011 年 6 月 18 日（土） 場所 管理棟第一会議室 参加人数：10 名

開催目的：ミートソースパスタの糖尿食の試食会を開催し、味付けや材料を工夫することで、低カロリーでも美味しくかつボリューム感のある食事にするができることを体験してもらうと同時に、食事療法への理解を高める。

#### ○第 27 回糖尿病相談会 テーマ 「私の体重管理法」「果物について」

開催日：2011 年 11 月 5 日（土） 場所 管理棟第一会議室 参加人数：9 名

開催目的：糖尿病の合併症について理解し、血糖コントロールの正常化を目指す。

実際の体重をグラフ化（1 日 4 回記録）することにより自分の適性体重を維持するコツを学び、家庭で実践してもらう。

#### ○第 28 回糖尿病相談会 テーマ 「運動療法：家の中で出来る運動」「食事療法：パンについて」

開催日：2012 年 3 月 5 日（土） 場所 管理棟第一会議室 参加人数：10 名

開催目的：適性体重を維持し血糖コントロールの正常化を目指す。

家の中でできる運動を習得し、冬の運動不足を解消する。

#### ○クリニカルパスの実施 0 名

### ○2012 年度の重点目標

○糖尿病に対する基礎知識の習得と普及

○相談会の年 3 回以上の開催

○糖尿病透析予防管理料算定を始める

○HbA1c の国際標準化に伴う表記法の変更の伝達

### ○2011 年度委員会開催日

4/4 5/9 6/6 7/4 8/1 9/5 10/3 10/31 12/5 1/16 2/13 3/12

### ○まとめ

2011 年度は糖尿病の教育入院は数件あったが糖尿病教育入院のパスの使用はなかった。

2012 年度は糖尿病相談会開催を年 3 回実施を目標とし、糖尿病患者さんの治療を支援したいと思います。



## 親和会（厚生会）

### ○設置目的

親和会は会員同士の親睦の向上と福祉の充実を図ると共に、明野中央病院の発展に寄与する事を目的とする。

### ○親和会スタッフ構成

・会 長 1 名      ・副会長 1 名      ・会 計 1 名      ・会計監査 1 名      ・役 員 9 名

### ○2011 年度活動報告

#### ①院内ボウリング大会催

開催日：2011 年 6 月 17 日

開催場所：O B S ボール

参加人数：60 名

#### ②職員旅行

実施日：2011 年 10 月 14 日～10 月 16 日      （2 泊 3 日）

旅行先：大阪（ユニバーサルスタジオ ジャパン）京都観光

参加人数：25 名

#### ③忘年会

開催日：2011 年 12 月 16 日

開催場所：全日空オアシスタワー

参加人数：109 名

## ニュースリリース

### 明野中学生 明野中央病院で一日看護師体験



3Fナースステーション

明野中央病院（木下昭生院長）は、五月十二日の「介護の日」にちなんで、五月七日明野中学三年生阿部りなさん等八名が参加し一日看護師体験学習が行われた。午前十時より木下昭生院長より地域病院の大切さと委嘱状の伝達式が行われ、生

徒さん達は実際に各病棟を回り、血圧測定、手や足の洗い、爪きり、また心臓マッサージ体験、病院ボランティアの方々の活動等勉強した。手や足の洗い、爪きりでは、患者さんに気持ち良いですか、痒いところはないですかと話掛けながら行っていた。また昼食では、患者さんと同じ食事で、栄養士さんとは、病気によつて食事が違い、栄養士さん達の作る食事も大切な事も良く分かりました。一日看護師体験学習に参加した生徒は、これからは高齢者社会が続く、一層病院の大切さが良く分かりました。今日の大切な一日看護師体験を生かして医療関係で働きたいですと話していた。

5月8日 明野タイムズ

### 看護週間の行事



▽明野中央病院（大分市、木下昭生院長）明野中学校3年生8人が「一日看護師体験」に取り組んだ。（写真）  
木下院長が生徒に委嘱状を渡し



い方を学んだ。  
男子でただ一人参加した永原京介さん（14）「顔写真」は「医療の仕事に興味がある。自分の手で救える命もある」ということが学べた」と話した。

た後、脈拍や血圧を測定。病棟を見学し、入院患者の足や手を洗う作業を手伝った。麻酔科医の森正和さんの指導で心臓マッサージや人工呼吸などを体験したり、AED（自動体外式除細動器）の使

5月13日 大分合同新聞





脈をとりながら血圧を測っていく生徒たち  
 シーツ交換や血圧測定といった看護の仕事  
 他、心臓マッサージやAEDの体験、ボラ  
 ティアの通じて病院に  
 流しながら多くの人の仕事を学  
 んでいった。

5月7日(土)、明野中央病院にて中学生  
 一日看護師体験が実施された。  
 今年、明野中学校の2年生8名が参加。  
 はじめに木下昭生院長の挨拶の後、一日看護師の委嘱式が行  
 われた。

## 5月12日は看護の日 明野中央病院一日看護師体験

5月7日(土)、明野中央病院にて中学生  
 一日看護師体験が実施された。  
 今年、明野中学校の2年生8名が参加。  
 はじめに木下昭生院長の挨拶の後、一日看護師の委嘱式が行  
 われた。

今年、明野中学校の2年生8名が参加。  
 はじめに木下昭生院長の挨拶の後、一日看護師の委嘱式が行  
 われた。

6月1日 大分団地新聞

病院でシーツ交換  
 足浴などに挑戦  
 大東中生が職場体験  
 大分市大東中学校(岩尾  
 亮校長・931人)の2年  
 生286人が市内74の事業  
 所で職場体験学習をした。  
 同市明野東の明野中央病  
 院では、6人が体験。シ  
 ツを作ったりホコリを立て  
 りしないようにコツを習  
 い、手際良くシーツ交換  
 したり、患者の足を丁寧  
 に洗う足浴などに取り組  
 んだ。

若林永輔君(13)は「とて  
 も勉強になった。足浴は  
 力加減が難しかったが、お  
 礼を言われてうれしかっ



コツを習いシーツ交換に取り組む生徒

た。田中<sup>あづま</sup>君(14)は  
 「難しい仕事と感じたが、  
 逆にやる気が湧いた。医  
 生を目指しているの  
 で、学んだことを将来につ  
 げていきたい」と話して  
 いた。

5月21日 大分合同新聞



## 明野中央病院 明野中学校・大東中学校職場体験学習

明野中学校の二年生が九月七日、八日と大東中学校の二年生が十四日、十五日の二日間明野中央病院で職場体験学習を行った。

体験学習では、血圧の計り方、また実際に患者さんの手や足を洗ってあげたり、肩をもんであげたりしました。また、看護師さん達の大変な仕事を学び、栄養士さんは、一人一人違う病気の為にカロリーを考えながら食事を料理し、患者さん達の健康管理を考えながら献立を決めたり、大変気を使う仕事だとよく分かりました。ある生徒は、お婆ちゃんが病院生活をしていいます。私はお婆ちゃんのような身体の弱い人の為に少しでも役に立てるように看護学校で勉強しながら看護師になりたいですと話していました。



大東中学校生



明野中学校生

10月15日 明野タイムズ

## 旭町自治会



骨折時の応急手当て

旭町自主防災会(小柳義明会長)の防災訓練は、自治会とグラウンドゴルフの会員等二五〇名が参加し野中公園で行われ、訓練ではトライアングル(三軒ずつの小単位)の連絡網作りとその実行を兼ねての訓練で、小柳自治会長の挨拶に続き、大分中央消防署の予防課が火災報知器等の説明の後、明野中央病院の中村副院長が、骨折、ねんざの応急処置の実演と、またロープを使って脱出訓練や消火器訓練等も行われました。

12月15日 明野タイムズ

## 明野中央病院 クリスマス会



明野中央病院クリスマス会(木下院長)は、ボランティアの会(志水会長)の主催で十二月三日クリスマス会を行った。クリスマス会では、明野ひよっこ同好会のフラダンス、木下邦夫さんの詩吟熊本城、小坂本綾葉ちゃんのみ踊り、明野ひよっこ会の方々の皆さん達でひよっこ踊りと、最後に全員でクリスマスに因んだ歌等歌い会場は大変盛り上がり上がっていた。里谷事務局長は、今年もボランティアの会の方々の協力で楽しいクリスマス会が盛大に開催されましたと感謝の挨拶をしていた。

1月15日 明野タイムズ



## 四重奏



◇…大分市明野と「新春寄席」を同病院で開いた。入院患者や地域の（木下昭生院長）は7日、笑って元気になってもらおう

◇…県南落語組合大分支部（中山和充支部長）のメンバー3人が出演した。安東時男さん（57）は演目「ちりとてちん」を披露。扇子を使ってうなぎのかば焼きを食べるしぐさをしてみせると、ユーモラスな表情と動きに会場は大きな笑いと拍手で沸いた。

◇…患者の宮崎照子さん（68）＝臼杵市野津町＝は「笑いっぱいなし。少しの間、入院の大変さを忘れることができた」と話していた。

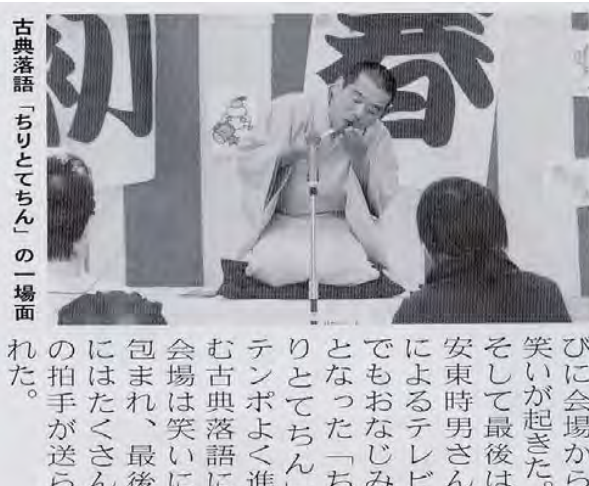
（写真）

1月8日 大分合同新聞

## 笑いは健康の源 明野中央病院で新春明野寄席

1月7日（土）、一席目は、山澤征明野中央病院（木下昭生院長）にて毎年「課長の犬」、おとぼ恒例の新春明野寄席が開催された。

今年も県南落語組合大分支部の皆さんがやって来て、古典落語から現代落語まで3題が行われた。



井上さんがなよなよしく女性を演じるたびに会場から笑いが起きた。そして最後は安東時男さんによるテレビでもおなじみとなった「ちりとてちん」テンポよく進む古典落語に会場は笑いに包まれ、最後にはたくさん拍手を送られた。

古典落語「ちりとてちん」の一場面

2月1日大分団地新聞



## 新入職員 1年間を振り返って

### ○リハビリテーション科 梶原美穂

明野中央病院で働き始め、1年が経ちました。この1年を振り返ると本当にあっという間で、とても濃い1年だったと思います。入社当初は仕事に対する知識や技術、業務内容などわからないことばかりでした。さらに慣れない環境で毎朝緊張して病院に向かっていたことを思い出します。失敗する事もあり、先輩方には迷惑をかけることも多くありましたが、忙しい中でも時間を割いて相談に乗ってもらい、丁寧に指導をして頂いた先輩方のおかげで、徐々に業務にも慣れることができました。また理学療法士として働く中で、患者さんが元気になっていく姿を見ることのできるとてもやりがいのある仕事であると共に、患者さんの命に関わるとても責任感のある仕事であると日々感じます。去年は、業務に慣れることで精一杯でした。少し業務に慣れてきた今年は、一人でも多くの患者さんに笑顔で退院していただけるように、知識や技術を高めていけるように努力していきたいと思います。

### ○リハビリテーション科 宮本香織

入職してからの1年を振り返るとあっという間でしたが、病院や業務に慣れることで精一杯だったと感じます。1年間で多くの患者さんと接する機会を頂きましたが、患者さんの訓練をさせて頂く際には分からないことばかりで、患者さんにはご迷惑もおかけしました。関わらせて頂いた患者さんには、私の方が元氣をもらうことが多く、様々なことを学ばせて頂きました。患者さんの希望が叶うように目標を立て、その実現に向けて介入することの難しさを感じました。今後は、さらに患者さんのQOLの部分に視野を拡げて介入していきたいと思います。また、1年が経ちリハスタッフだけではなく病棟スタッフ間でのコミュニケーションの必要性を感じました。入職時は緊張することが多かったですが、病棟スタッフと関わることに慣れ、以前より情報交換の場が多くなったように感じます。今後も病棟スタッフとの情報共有に努め、また先輩方に指導して頂きながら作業療法士として成長していきたいと思います。

### ○リハビリテーション科 工藤あずさ

明野中央病院で働き始め、早いもので1年が過ぎました。入社時は全くと言っていいほど「リハビリテーション」という事の知識がなく、何をするにしても初めてのことばかりでした。緊張と不安や分からないこともあり、たくさん迷惑をかけたことと思います。しかし、先輩方から丁寧に教えて頂いたり相談に乗って頂いたおかげで、今ではリハビリという仕事を通して多くのことを学んでいます。患者さんに接する際、直接的に治療に関わることは少ないですけど、自分には何ができるだろうと考え患者さんの立場に立って行動しなければならないと感じました。2年目に入った今年はまだまだ余裕がないこともありますが、臨機応変に対応できるようにすること、そして、もっともっと知識を増やして自分自身に自信がつくように日々努力して働きたいと思います。



#### ○臨床工学科 都甲博史

新社会人として、また医療技術部の新たな科として一年間、自分にやれることを一生懸命頑張ってきました。入職時は機器の全リストと作るということに専念し、作成しました。そのリストはいつでも閲覧できるようにグループウェアに載せました。また、そのリストをもとに院内の機器の稼働率を調べています。機器の保守点検、修理業務に関して、修理や故障の原因追及は経験が大事だなと痛感しました、その面では、白石課長に聞きながら現場を見て、実際に行ってみて少しずつ覚え自分の経験としていきました。今後も更に技術を向上させて行きたいと思います。また、臨床工学科として今まで看護部が行っていた機器の点検を請負いました。点検業務を行うなかで、不良発見時に修理などに出しましたが、周りのスタッフへの連絡を怠るなどのミスをしました。自分のコミュニケーション能力の低さと管理を任されているという意識の低さが出た結果だと思っています。これを見直して改善していきたいと思います。新人の私に対し、院長をはじめ多くの方が気を使って下さり、「困っていることはないか?」「上手くいっているか?」と言葉をかけて頂き、働き易い環境を提供してもらい、自分の意見を述べる場所まで与えてくださったことに感謝しています。まだまだ未熟な面が多くありますが、今後も一層頑張っていきたいと思います。

#### ○看護部 2階病棟 工藤樹里

入職してあっという間に1年が過ぎました。最初は、ナースコールを取ることにすら緊張していました。徐々に患者さんと接することにも慣れ、いろいろな話ができるようになりました。辛いことがあり、暗い顔で仕事をしたこともあったと思います。そんな時に、明るい笑顔で「樹里ちゃん頑張れ!」と患者さんから言ってもらえると元気が出ました。今でも、退院された患者さんと外来で久しぶりに会った時に、声をかけられ元気になったと報告をしてくれる方もたくさんいます。患者さんから教えられることもたくさんありましたが、病棟の先輩看護師の方々からもいろんな事を教えてもらいました。最初の頃は、ほんとに何もできませんでしたが、丁寧で暖かいご指導があったことで、今では点滴や傷の処置など、1人で行えるようになったこともたくさん増えました。まだまだ経験を積んで学ぶことも沢山あるので、日々の勉強と振り返りを大切にして、これからも頑張りたいと思います。





## 入職 20 年を振り返って

### ○看護部長 鈴木京子

明野中央病院に就職し、次女を背負い、鍋を焦がしながら試験勉強をした 20 年前が懐かしく感じる。それまで准看護師として働いていたが、「一生看護師として働く」と決め看護学校に入学した。30 歳を過ぎ、家庭と仕事と学生の 3 両立は若さ故可能であったと思う。学校を無事卒業、国家試験にも合格し、こうして看護師として働いているのは、職場の人達や家族の協力があつたからこそと感謝している。ナイチンゲールに憧れて看護師となり、理想と現実とのギャップに悩んだ事もあった。しかし、木下院長や中村副院長が着任し当院の医療や看護が大きく変わった。明野地区にあり、地域の人々に支えられながら、地域の病院として根付いてきた事がとてもうれしく思う。最後に、先生方や同僚に恵まれ、看護部長就任から 2 度にわたり神戸へ看護管理者研修に行かせて頂いたことに深く感謝している。また、日々いろいろなことを教えてくれる、さらにはたくさんの元気をくれる患者さん達へも「ありがとう」と言いたい。

### ○看護副部長 池田直美

私は 20 年前の 6 月に明野中央病院に就職しましたが、当時は寝たきりの患者さんが多い内科の病院でした。夜勤はおむつ交換に追われていたのを覚えています。日勤帯も、清拭、膀胱洗浄、オムツ交換が主な仕事でした。入職当時私の指導にあたっていた鈴木さん（現看護部長）が「池田さん、流されちゃだめよ。」と言っていましたが、この「流される」とは「現在の状況に満足してはだめですよ。」と言う事で、人はついつい楽な方に流されてしまうようで、清拭、膀胱洗浄、オムツ交換を時間毎にやれば 1 日が終わっていました。あまり難しい事を考えなくていいけど、なんか楽しくない。そのような状況に慣れるなということだったと思います。（さすが看護部長 当時からモチベーションが高かったのですね。）そんな病院にやってきたのが中村先生でした。先生は当時病院を変えるために、花壇コンクールを開催しました。ベランダにプランターを置いて各部署がいろいろな花を育てるのです。1 番きれいに咲かせた部署が一等賞・・・「何で花壇コンクール？」病院を一つにまとめスタッフのモチベーションを上げるために？ しかし、あまり真面目な事ではみんなが乗ってこないと思ったのでしょうか。とにかく、中村先生や院長先生が来られて病院が大きく変わっていきました。忙しいけど仕事がおもしろくてやりがいのある病院に。しかも、一つだけ変わっていない事があります。それは、職員みんなの家庭的な優しさです。それは看護の中に生きていますし、職員の思いやりが今の病院の形を造っていると思います。だからこそ 20 年も勤続できたのですね。これからもこの優しさを忘れないでもう少し頑張っていきたいと思います。



## 入職 10 年を振り返って

○リハビリテーション科長 佐々木信弘

理学療法士として、初めての職場が一人職場で孤軍奮闘したのを覚えています。とにかく障がいと向き合い最大限の治療を目指し、日々業務に追われたのを懐かしく記憶しています。その時、頼りになったのが先輩であり同じ職種の理学療法士の仲間でした。その後臨床経験を積み重ね、10 年前に明野中央病院に入職しました。当初、リハビリテーション科は、新人の作業療法士、助手の 3 名体制でした。当時は、現在と同じく術前、術後の急性期リハビリテーションから訪問リハビリテーションも実施していました。その後、リハビリテーション医療を取り巻く環境も大きく変化し、機能分化が進み急性期、回復期、維持期と役割が明確化し、疾患別リハビリテーションも導入されました。リハビリテーション科でも、診療報酬改定の動向に合わせて職員も年々増加し、2012 年 4 月現在で 19 名となっています。しかし職員の増加に伴い「リハビリテーション科がどうあるべきか」を日々考え組織運営の難しさを痛感しています。組織は一人一人が作っていくという原点の基、今後も職員が同じ目的を持ち同じ方向に向いている組織づくりを目指していきたいと思います。また、私自身も理学療法士として指導する立場となり、若かった頃に先輩方に教えていただいたリハビリテーションの礎を後輩に引き継ぐことができているのか、今後も初心を忘れることなく頑張っていきたいと思います。最後に、これからの 10 年が後悔なく充実したものであるように、一人の理学療法士として今後どうあるべきか、改めて過去を見詰め直し少しずつでも新しい未来に向かって前に進んでいける人生にしたいと考えています。

○看護部 2 階病棟主任 大江かおり

明野中央病院に勤めて早いもので 10 年が過ぎました。20 歳で看護学校を卒業し今まで一度も働いた事がなかったので、当院での勤務が社会人としても初めてのスタートとなりました。当初は、社会人・看護師としても未熟で、患者さんやスタッフの皆さんへ大変迷惑を掛けた事を思い出します。看護師として何一つ処置や注射ができなかった私に、1 から根気強く指導してくれ、患者さんへの接し方や看護師、社会人としてのルールもこの病院で教わりました。何度もくじけそうになりましたが、今こうして看護師として働けているのは、患者さんやスタッフの皆さんの温かい指導や声掛けがあったからだと思います。10 年間、看護師としての経験を踏み、多くの患者さんと出会う中でいろいろな事を学ばせていただきました。今後は、これまでに経験し学んだ事を活かし、自分自身に甘んじることなく責任と目標を持ち、入院から退院まで多くの患者さんに満足してもらえるような看護ができるよう頑張っていきたいと思います。





## 入職 5 年を振り返って

### ○リハビリテーション科副主任 福留智絵

入職して一年目は急性期病棟で業務を覚え、やっと業務に慣れた頃に回復期リハビリテーション病棟が開設され、以降回復期リハビリテーション病棟での業務となりました。病棟との連携、患者本人や家族とのコミュニケーションなど、新たに覚えることも増え、あっという間に 5 年が経ちました。慌ただしく過ごしたように感じます。現在は、リハスタッフの人数も増え、患者 1 人あたりに介入する時間も多く取れるようになり、在宅復帰を目標にリハビリストアッフとしてより効果的なアプローチが可能となり、他職種との連携をとれるようになったと感じます。また実際に自宅へ行き家屋調査を行ったり、家族や後方支援の方々と情報交換する場も増え、徐々にではありますが具体的に在宅復帰へ力を入れられるようになりました。しかし、まだまだ不十分な点もあります。今後改善を図りながら、より満足度の高いアプローチが行えるように、病棟の一員として頑張りたいと思います。

### ○栄養科主任 小手川枝里

大学を卒業し、初めて働いた職場が明野中央病院でした。初めての職場で、栄養士として働いていけるのか不安な毎日でした。入社して一番驚いたことは、朝の回診に栄養士も参加できるということです。いろんな職種の人たちと患者さん一人一人を見ていき、状態の把握ができ、他職種の人たちの意見を聞けてとても勉強になると思いました。また、栄養科では、大量調理、病態にあった献立作成、患者さん一人一人に合った食事の提供（工夫）など初めての事ばかりで戸惑うことが多かったのですが、5 年を振り返って自分たちが作った食事を患者さんが嬉しそうに食べてくれる姿が見れたり、時には指摘してもらったりと、患者さんの生の声をたくさん聞くことができ、もっと患者さんの満足してもらえる食事を提供していこうと思いました。これからは、勉強会・学会など積極的に参加し、栄養士としての知識向上を目指して日々の業務に取り組んでいきたいと思います。

### ○看護部 2 階病棟 嶺明美

私が前の医院から明野中央病院に入社して 5 年が経ちました。それまで行ってきた事は殆ど使えない知識や技術で、まさに新人同様。右も左も分からない状態で一からこの病院で教えていただき、色々な患者さんと出会い、様々なスタッフに助けをいただきながら経験を積んできました。私は「看護師は患者さんに一番近い存在」を意識するようにしています。患者さんが安心して入院生活を送ってもらうために、必要な時に必要な声かけや対処ができるように、自分に今何ができるかを考えて行動するようにしています。しかし、まだまだ経験・知識不足のため間違った見方をしたり、異常に気付かず見落としとしてしまったりする事があり、その度に落ち込んでいますが、仲間の看護師にいつも支えられてきました。これからも、初心を忘れず、より知識を深め話しやすい看護師を目指して患者さんと関わっていききたいと思います。



○看護部 2 階病棟 平川利枝

入職して 5 年、あっという間の 5 年でした。入職時、入退院の患者さんが多い事に驚き、仕事についていけずスタッフの皆さんに迷惑をかけることが多かったと思います。今でも迷惑をかけることが多いと思いますが、これまで学んできたことや経験を活かし、患者さんと接し、勉強し、成長していきたいと思います。また、昨年出席させていただいた病院学会ではとても良い経験となり、多くの事を勉強させていただきました。今は 2 人の子供の親となり、仕事と育児の両立ができず、師長さん方と相談し 4 月より短時間勤務にさせてもらいました。他の頑張っているスタッフを見ると自分の不甲斐なさを感じますが、これからも日々精進し、仕事と育児を両立させ勉強も頑張っていきたいと思います。

○看護部 3 階病棟 紺田静子

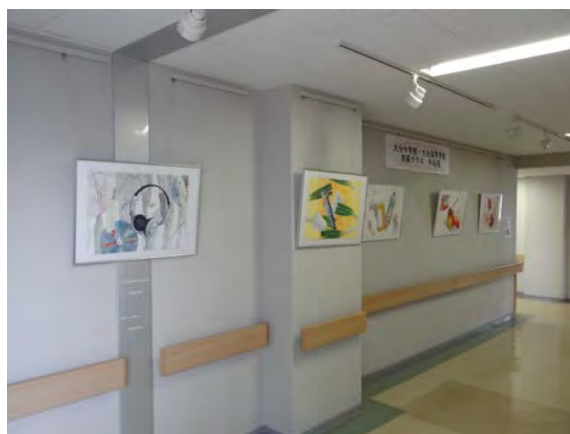
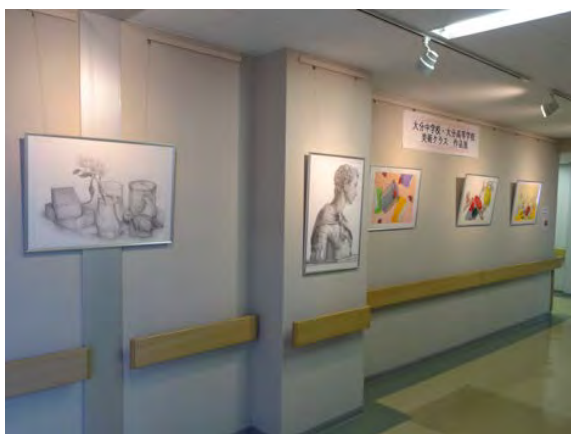
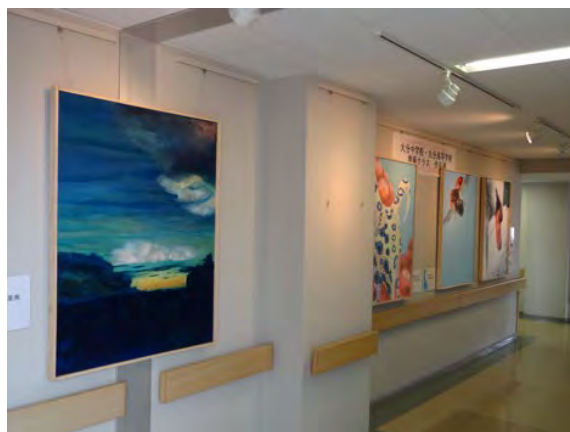
入職当時の 3 階病棟は、療養型病棟で、看護助手の仕事は、環境整備や患者さんを清潔に保つことを主に関わってきました。しかし三年前より回復期リハビリテーション病棟に変わり、車椅子移動、トイレ介助、入浴介助など患者さんに直接関わるが多くなり、リハビリスタッフや看護師に色々な知識と技術を習いながら看護助手もスタッフの一員に加わるようになりました。歩けない患者さんが歩けるようになり、また鼻から管が入っている患者さんが口から食べられるようになり、笑顔で退院していく姿を見て、患者さんから自分自身が笑顔や優しさを頂いていることに気付かされました。明野中央病院は、明るく働きやすい職場です。これからも頑張っていこうと思います。

○総務課係長 首藤大樹

平成 18 年に当院に入職し、早いもので 5 年を超えました。私の前職はコンピューター関係の職種についており医療業種に自分が携わっていくとは当時夢にも思っていませんでした。前職のプロジェクトが一段落したところで退職し地元に戻っていた所、「コンピューターが扱える職員を急遽探している」ということで声を掛けて頂き、病院という職場をよくわからないまま面接を受けたことを思い出します。病院に入職してすぐの頃、今も私の上司であり先輩である佐藤診療情報管理室室長に初めてした質問を今でも覚えています。「外科・形成外科・整形外科ってありますが外科は 1 つではないのですか？」「病気の場所によって違うのだけど、うちの病院は整形外科が主で、手術ではドリルやノミやハンマーを使って患者さんを治したりもするよ。外科のバリエーションもまだまだ沢山あるよ。消化器外科とか・・・」と言われたときに「とんでもない職場に入ってしまった・・・」と自分の知識と経験の無さに不安になったことを今でも思い出します。機械を相手にしていた前職とは異なり、多くの職員と共に、病気になって訪れるさらに多くの患者さんと話し、触れ合い、最善の治療を一丸となって実施していくことに当初は戸惑いも多くありましたが、事務職員だけでなく、医師や看護師、院長や副院長や看護部長など多くの方々に支えられ、少しずつではありますが自分も成長してきていると思います。今後も自分を高め、後輩を育て、より良い医療を提供できるように努めていきたいと思っています。

## 大分高等学校美術専攻クラス作品展

2011年6月24日より大分高等学校と当院ボランティア会のご協力により、同校美術専攻クラスの生徒の皆さんの作品を展示しています。3階回復期リハビリテーション病棟の本館と東館の連絡通路に展示スペースを設け、いずれも力作の絵画を鑑賞することができます。運営をボランティア会にお世話いただき、定期的にテーマを変えて作品も入れ替えています。高校生の自由なみずみずしい才能を是非ご鑑賞ください。





医療法人社団唱和会 明野中央病院

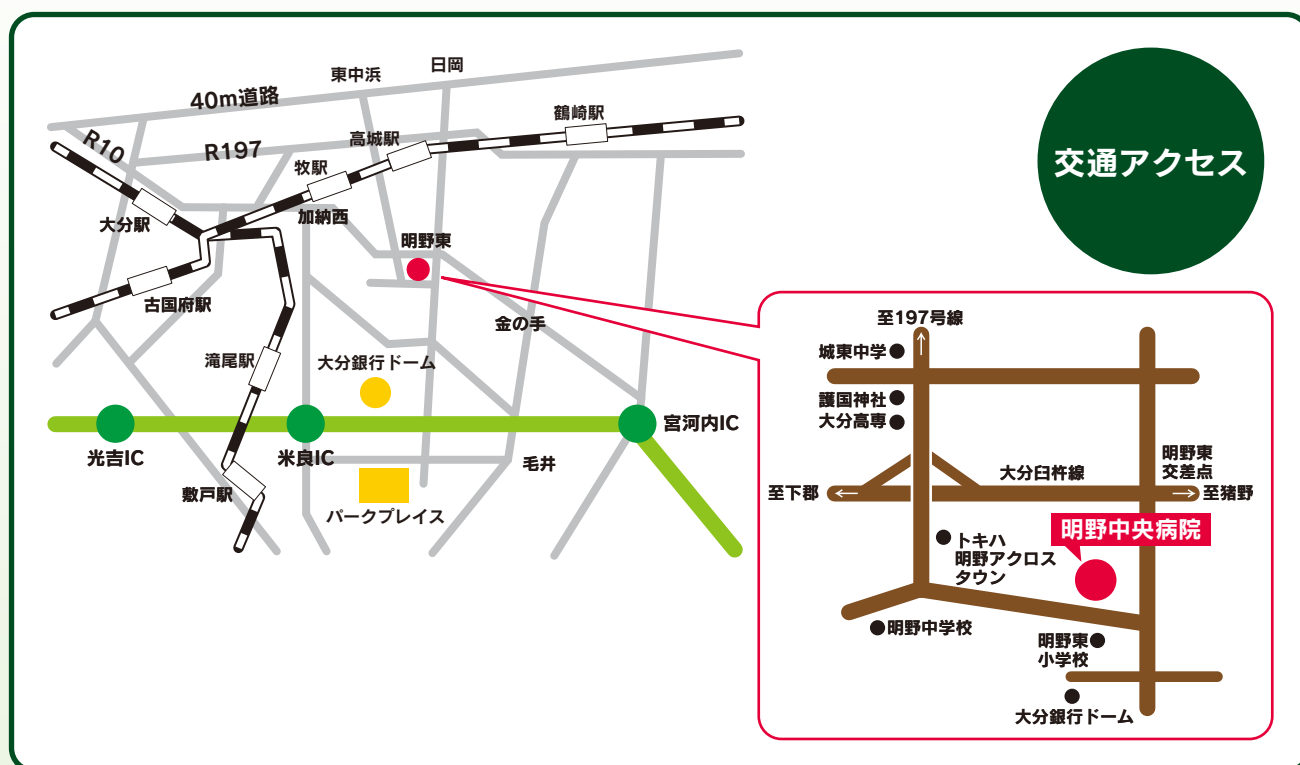
---

事業報告書（2011年度）

2012年8月1日発行

発行／医療法人社団唱和会

編集／医療法人社団唱和会 事務部総務課



## 医療法人社団唱和会 **明野中央病院**

〒870-0161 大分県大分市明野東2丁目7番33号

TEL (097)558-3211 FAX (097)558-3709

E-mail: akenohp@fat.coara.or.jp

<http://www.coara.or.jp/~akenohp/>